

もも、うめ、すももなどバラ科果樹の深刻な脅威！

クビアカツヤカミキリの生態と防除対策



R6.8 改訂版



1. はじめに

令和6年8月

もも、うめ、すももなどに深刻な被害を与える侵入害虫クビアカツヤカミキリは、国内では平成24年に愛知県で初めて確認され、大阪府でも平成27年にさくらで初確認されました。平成30年1月には環境省により特定外来生物に指定されています。

国内では、これまでに13都府県で被害が認められ、府内でもさくらだけでなく、うめやももなどの農作物での被害も増えており、さらに分布域を拡大しています。

クビアカツヤカミキリの被害に遭うと、幼虫に樹木内が食い荒らされ、やがて枯死してしまいます。果樹被害だけではなく倒木等による危険やさくらなどの日本文化への被害も考えられます。

被害を抑えるためにはクビアカツヤカミキリの早期発見と早期防除が重要です。そこで本資料では、クビアカツヤカミキリの生態と被害を拡大させないための防除方法を示しました。

平成31年春に本書を発行してから5年が経過し、クビアカツヤカミキリへの登録農薬等も新たに追加されてきているので、最新の登録内容を取り入れて内容を増補改訂しました。

目 次

1. はじめに	P. 1
2. クビアカツヤカミキリとは	P. 2
3. クビアカツヤカミキリの一生	P. 3
4. 被害の確認	P. 4
5. 発生状況(令和6年8月現在)	P. 5
6. 防除方法(1. 農薬に頼らない防除)	P. 6
防除方法(2. 農薬による防除)	P. 8
防除方法(3. 被害樹の伐採)	P. 12
7. 伐採樹の運搬・保管について	P. 13
8. もも害虫防除暦(例)	P. 14

クビアカツヤカミキリは特定外来生物です

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されており、飼養等(飼育・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入・野外への放出等)が原則として禁止されています。

違反した場合は、最高で個人の場合3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金、法人の場合は1億円以下の罰金が科せられます。

例えば、

- 採集した個体を飼育すること。
- 個体を移動させること、さらに他の地域に放つこと。

などは法律により禁止されています。

2. クビアカツヤカミキリとは

属性

- 種名 クビアカツヤカミキリ
- 学名 *Aromia bungii*
- 分類 コウチュウ目カミキリムシ科ジャコウカミキリ属
※平成30年1月に特定外来生物に指定

形態(成虫)

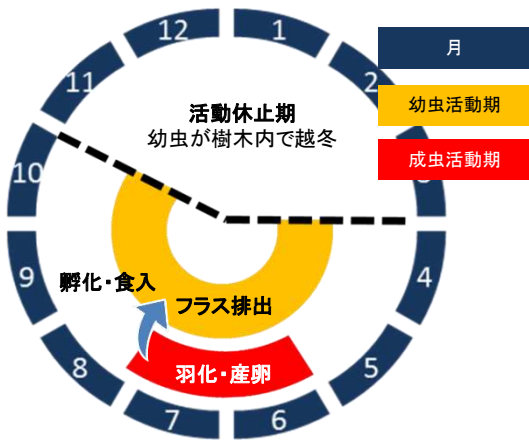
- 体長 25~40mm程度
- 特徴 体全体は黒く光沢がある。
前胸背板(頭部の下部)は赤く、側面にはこぶ状の突起を一对持つ。
雄の触角は体長より長く、雌の触角は体長より短い。
ジャコウのような独特の芳香を放つ液を分泌する。

生態

- 分布 中国、台湾、朝鮮半島、ベトナムなど
- 寄主 バラ科の樹木(生木)
日本ではさくら、もも、うめ、すももなどで確認されている。
- 生態 寄主樹木の樹皮表面や割れ目などに産卵し、孵化した幼虫が樹木内へ食入する。
食入した幼虫はフラス(糞と木くず、樹液などが混ざったもの)を排出しながら、樹木内を食害する。
成虫は2週間~1ヶ月くらい生きるが、越冬はしない。

生活環

幼虫は樹木内で4~10月頃まで活動し、フラスを排出する。多くが約2年後の春に樹体深部で蛹化する。成虫は6~8月頃に羽化して産卵し、卵は10日前後で孵化する。孵化した幼虫は樹木内へ食入する。



4~10月

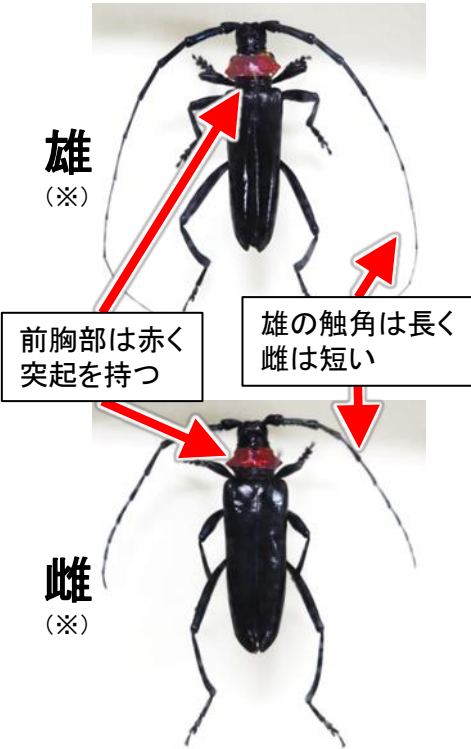


春になると幼虫が摂食活動を再開し、フラスを排出。

6~8月



羽化のピークは6月中旬~7月中旬
羽化後すぐに交尾を開始し産卵。



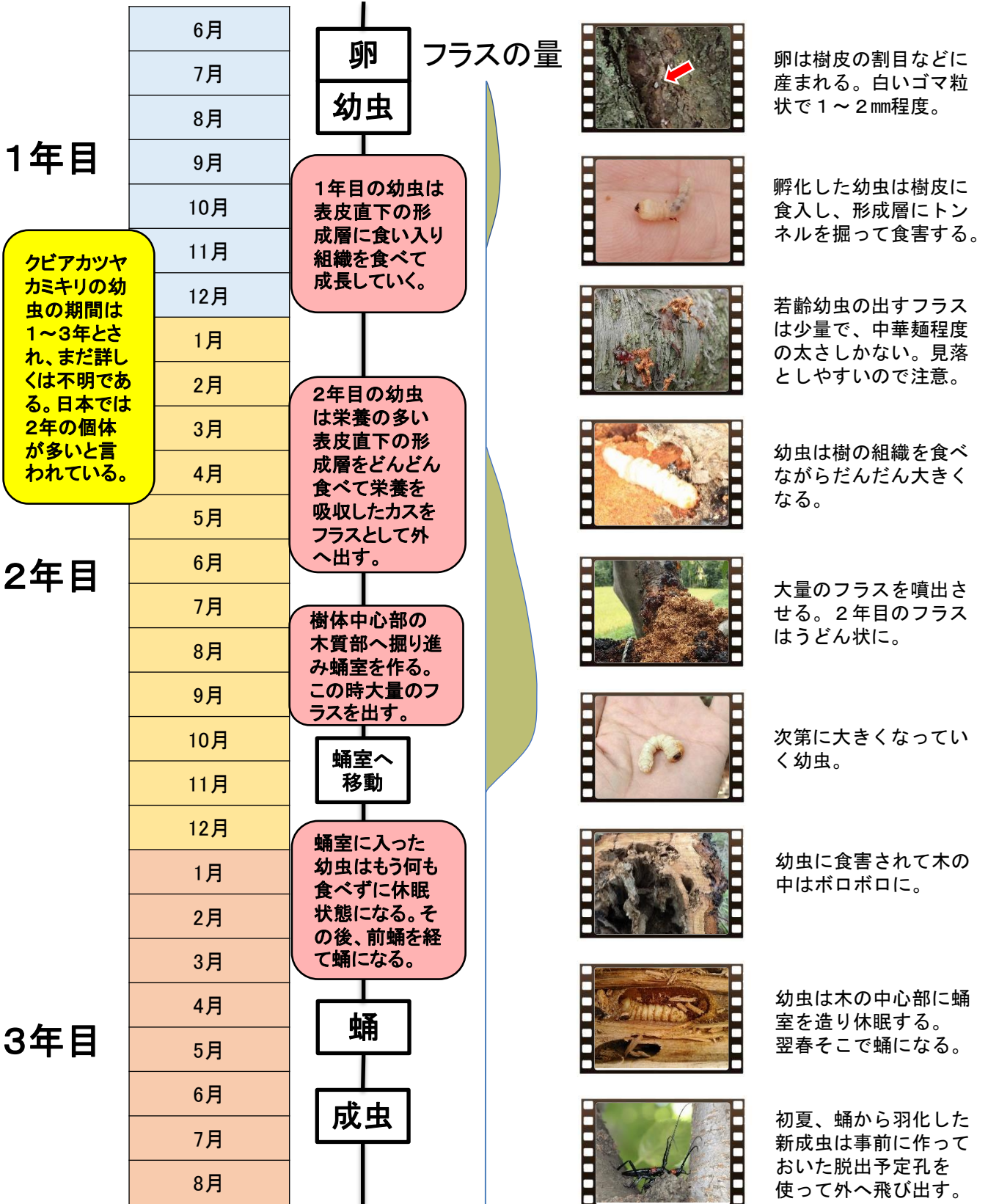
1頭の雌が非常に多くの卵を産み、他のカミキリムシ類より繁殖能力が高い。
生涯平均で約350個、最大で約750個、産卵する能力があるといわれている。



(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所Youtubeチャンネルにて「クビアカツヤカミキリについて知ろう~生態編~」公開中
<https://www.youtube.com/watch?v=sCAOBEmPwPM>

※(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 写真提供

3. クビアカツヤカミキリの一生



クビアカツヤカミキリの幼虫の期間は1~3年とされ、まだ詳しくは不明である。日本では2年の個体が多いと言われている。

4. 被害の確認

クビアカツヤカミキリの発生・被害の確認方法

- 成虫(6~8月)P.2
- 幼虫の排出するフラス(4~10月)P.4
- 脱出孔P.4

成虫とフラスの確認が確実性が高く有効な調査方法である。



株元に大量に溜まったクビアカツヤカミキリのフラス

クビアカツヤカミキリのフラスの特徴

細いフラス(中華麺状)



若齢幼虫のフラス

太いフラス(うどん状)

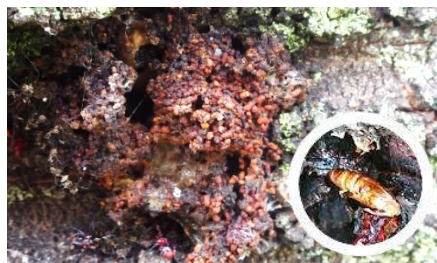


老齢幼虫のフラス

クビアカツヤカミキリは、人の背丈くらいまでの高さの幹、太い枝、根に幼虫が食入することが多く、食入孔からフラスを排出する。若齢幼虫のフラスは細い中華麺状で見落としやすいので注意。老齢幼虫のフラスは、うどん状に固まるのが特徴で大量に出てくる。

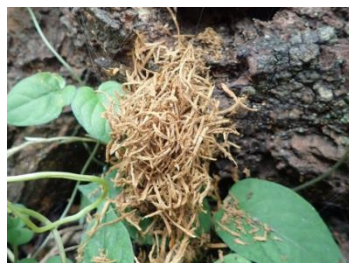
クビアカツヤカミキリのフラスと間違えやすいもの

スカシバ類のフラス(虫糞)



顆粒状で少量、蛹殻がある場合も

他のカミキリムシのフラス(※)



繊維状など形状が違う

アリ類の蟻道



内部や周辺にアリが多くいる

その他のクビアカツヤカミキリ被害の特徴

成虫の脱出孔



縦に長い楕円形

被害枝の加害状況



形成層を中心に加害

食害された枝と表皮



多数の幼虫による食入孔と食害痕

枯死したものの樹(※)



株元には大量のフラス
多数の脱出孔あり

被害が進むと、果実が大きくなりず収量が減少するだけでなく、やがて枯死してしまう。枯れた樹木は倒木や落枝の危険性がある。

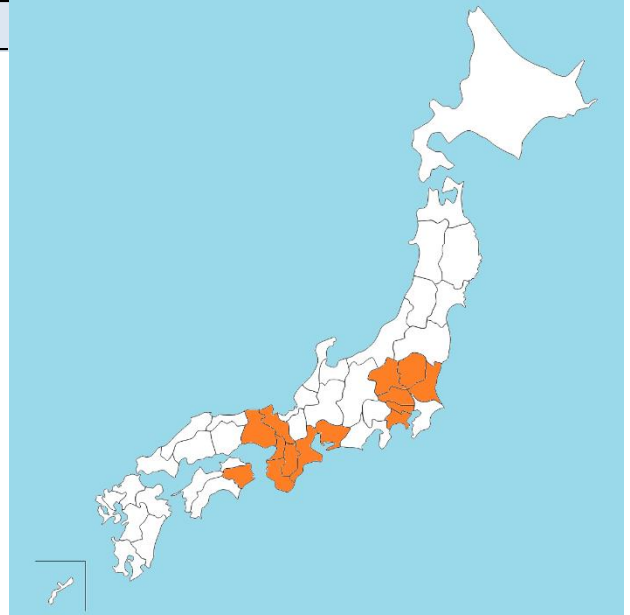
5. 発生状況（令和6年8月現在）

全国の発生状況

平成24年に愛知県で国内で初めて発見され、以降、各地で被害が発見されている。
現時点で1都、2府、11県の計14都府県で発生が報告されている。

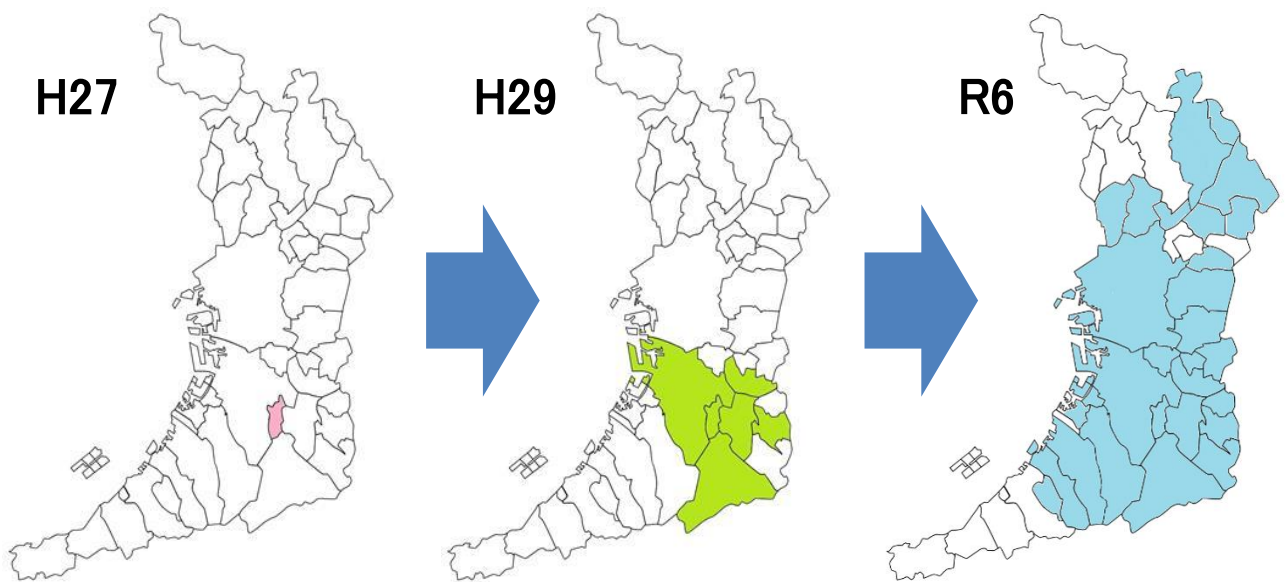
国内でのクビアカツヤカミキリの発生状況

都府県名	報告年	主な被害樹種
愛知県	平成24年	さくら、もも
埼玉県	平成25年	さくら、もも、すもも、うめ
群馬県	平成27年	さくら、もも、すもも、うめ
東京都	平成27年	さくら、もも、すもも、うめ
大阪府	平成27年	さくら、もも、すもも、うめ
徳島県	平成27年	さくら、もも、すもも、うめ
栃木県	平成28年	さくら、もも、すもも、うめ
奈良県	令和元年	さくら、もも、すもも、うめ
三重県	令和元年	さくら
茨城県	令和元年	さくら、はなもも
和歌山県	令和元年	さくら、もも、すもも、うめ
神奈川県	令和3年	さくら
兵庫県	令和4年	さくら、すもも
京都府	令和6年	さくら



大阪府内での発生・被害状況

府内では平成27年に大阪狭山市の公園のさくらで初めて確認された。その後、平成28年にうめ、平成29年にはももの被害が確認され、令和6年8月現在、29市町村にまで被害が拡大している。



大阪狭山市 (H27)、堺市 (H28)、富田林市、河内長野市、羽曳野市、河南町 (H29)、大阪市、藤井寺市、太子町、千早赤阪村 (H30)、柏原市 (R1)、八尾市、松原市、東大阪市 (R2)、高槻市、和泉市 (R3)、岸和田市、貝塚市、高石市 (R4)、枚方市、寝屋川市 (R5)、熊取町、島本町、泉大津市、吹田市、豊中市、大東市、摂津市、交野市 (R6)
下線の市町村は農業被害も確認

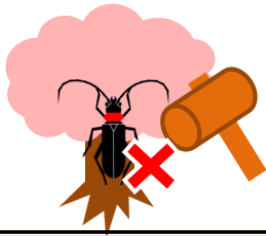
まだ発見されていない地域でも、見つかっていないだけで生息している可能性がある。
自身のほ場や周辺のバラ科樹木を注意して観察しよう。

6. 防除方法

クビアカツヤカミキリの防除方法

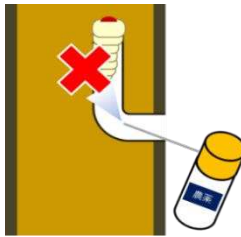
1. 農薬に頼らない防除

- (1) 成虫、幼虫の捕殺
- (2) 防風ネットを利用した成虫の分散防止



2. 農薬による防除

- (1) 化学農薬による防除
- (2) 生物農薬による防除



枯死や被害が大きく
防除が困難な場合

3. 被害樹の伐採

- 被害の大きい樹や枯死木の伐採・伐根
- 伐採樹の破碎・粉碎



一つの方法で完全な防除は難しいので、複数の方法を組合せてしっかりと防除する
早期発見・早期防除が重要

1. 農薬に頼らない防除

(1) 成虫、幼虫の捕殺

クビアカツヤカミキリは産卵数が1頭あたり数百個と非常に多く、繁殖能力が高い。また、飛翔したり、車などに捕まり長距離を移動することもあるため拡散しやすいので、見つけ次第その場で捕殺する。

成虫の捕殺(6~8月の成虫発生時期)

発生時期(羽化のピークは6月中旬~7月中旬)にほ場を見回り、見つけ次第、捕殺する。土の上で踏んでもなかなか潰れないので慎重に潰すこと。

ポイント

クビアカツヤカミキリは昼行性のため、日中は活発に動き回る。羽化後すぐに交尾を開始するため、見つけたら必ずその場で捕殺する。



幼虫の捕殺(4~10月のフラス排出期)

- ① 硬めのブラシや干枚通しなどでフラスを掻き出す。
- ② 長い針金をフラス排出孔から坑道(幼虫が食い進んでできたトンネル)内に刺して内部の幼虫を刺殺する。

ポイント

幼虫は不規則に樹木内を食い進むので、坑道が曲がりくねって針金が届かないことも多い。樹皮をめくると樹が傷むので要注意。食入初期のほうが比較的浅いところにいるため、刺殺できる可能性が高い。



食入初期のフラス(通常より細い)



樹木内に潜んでいた幼虫



幼虫の刺殺(※)

6. 防除方法

(2) ネットを利用した成虫の分散および産卵の防止

成虫が発生する前の5月下旬までにネットを樹幹に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込め、他樹への分散を防ぐ。また、通常の4mm目に代えて0.4mm目のネットを巻くと産卵防止効果も期待できる。

ネットは少なくとも成虫が活動する可能性のある8月中は被覆したままにすること

ネットの巻き方

- ① ネットを必要な長さに切る(樹幹を2~3周、高さ1.5~2m程度まで巻けるように)。
- ② 幹が二股、三股に分かれている場合は、股の部分にネットをかける。
- ③ 樹幹部にネットを巻付け、針金やひもで固定する。ネットはゆったりと余裕を持たせて巻く。接続部から逃げ出さないように針金・ひも等で縫い合わせたり、ステープラーで固定する。上端はひもでしっかり固定し隙間ができないようにする。太い根にも幼虫は食入するので根までしっかりと覆い、下端はペグなどで地面との隙間がないようにしっかりと固定する。



股の部分からネットを巻く(※)



樹幹にネットを余裕をもたせ2重に巻く(※)



ネットのつなぎ目はしっかりと縫い付ける(※)



根元はペグで地面に固定する(※)

ポイント

- 通常用いられる4mm目ネットに比べ、目の細かい0.4mm目のネットは産卵防止効果が高い。
- ネットを樹に密着させて巻くと噛み切って脱出することがあるので、樹表面とネットの隙間が空くようゆったり巻く。
- 4mm目ネットは2重に、0.4mm目ネットは1重に巻き付ける。
- ネット内で交尾・産卵することがあるので、ネット設置後も成虫の発生時期は頻繁に見回り、ネット内の新成虫をハンマー等で殺す。



ネットを噛み切ろうとする成虫



成虫はネット内でも交尾・産卵する



高さ1.5~2mまで巻く



(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所Youtubeチャンネルにて「クビアカツヤカミキリについて知ろう ~ネット巻編~」公開中
<https://youtu.be/AmM8Swbssz4>

6. 防除方法

2. 農薬による防除

(1) 化学農薬による防除

エアゾール剤(ロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾール、園芸用キンチョールE等)の使用方法

エアゾールタイプの農薬は、食入孔にノズルを刺し込み、薬液を噴射して樹幹内にいる幼虫を殺虫する。幼虫が活動する4～10月のフラス排出期に処理する。



フラスをブラシや
千枚通しなどで取り除く



食入孔(フラス排出孔)
を見つける



食入孔にノズルを刺し込み
薬液をたっぷり噴射する



薬液が食入孔から
あふれるまで注入する

ポイント

- 幼虫は不規則に樹木内を食い進むので、坑道が曲がりくねっていたり、坑道内にフラスが充満していると薬液が届かないことがあるので注意。3～7日後にフラスが新たに出ていなければ駆除成功！まだフラスが出てきている時は再度注入する。
- 薬液が幼虫まで届かないと効果が期待できないため、幼虫が浅いところにいて比較的効果の安定する食入初期(細いフラスの時期)に防除するのがよい。

散布用水和剤、液剤、水溶剤、乳剤等(アクタラ、テッパン、モスピラン、ダントツ、スミチオン等)の使用方法

主に成虫発生期に樹体に噴霧器等で散布し、成虫やふ化直後～初期の幼虫を殺虫する。

ポイント

- 散布に当たっては、葉や枝先ばかりでなく、クビアカツヤカミキリ成虫が活動する主枝や樹幹部に薬剤が十分にいきわたるよう注意して散布する。
- 散布時期は果実の収穫時期と被るため、収穫前日数など登録内容を十分確認して散布する。

(2) 生物農薬による防除

「バイオリサ・カミキリ」の使用方法

自然界に生息する昆虫病原性糸状菌(ポーベリア ブロンニアティ)を付着した不織布製剤を樹幹の分枝部分などに架けて使用する。カミキリ成虫が触れることで感染し、1～3週間で死亡させる。

特定のカミキリ以外の昆虫への病原性は低く、設置後30日程度効果を発揮する。クビアカツヤカミキリは新成虫が脱出後、すぐに交尾産卵することができ、感染後、死亡するまでの期間に産卵することもあるので設置しても成虫捕殺は確実に行うこと。



かんきつに使用したバイオリサ・カミキリと
接触するゴマダラカミキリ



感染・致死したキボシカミキリ

ポイント

成虫の発生初期の6月上～中旬頃に設置する。生きた菌を使用しているため、購入後は乾燥した冷暗所(約5℃)に保管し、入手後はなるべく早く使い切ること。

6. 防除方法

クビアカツヤカミキリに登録のある主な農薬

農薬は使用する作物(樹木類も含む)と対象害虫に登録のあるものしか使用してはならない。
農薬使用時にはラベル(登録情報)を確認し、記載内容を守って使用すること。

(令和6年8月現在)

作物名	農薬名 (成分名)	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	本剤の 使用 回数
果樹類 ※1	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリン)	3A	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
果樹類	パイオリサ・カミキリ (ボーベリア ブロンニアティ)	—(生)	カミキリムシ類	1本/樹	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	成虫発生初期	—
もも	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリン)	3A	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
	モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	テツパン液剤 (シクラニリプロール)	28	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
	アクタラ顆粒水溶剤 (チアマトキサム)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	スミチオン乳剤 (MEP)	1B	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生初期 但し、 収穫3日前まで	6回以内
	ダントツ水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内
	ベニカ水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内
	ハチハチフロアブル (トルフェンピラド)	21A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期但し、 収穫前日まで	2回以内
	オリオン水和剤40 (アラニカルブ)	1A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期但し、 収穫14日前まで	2回以内
	アグロスリン水和剤 (シベルメトリン)	3A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	収穫前日まで	5回以内
	バイオセーフ (スタイナーネマ カーボカブサエ)	—(生)	クビアカツヤカミキリ	2500万頭 (約10g) 2.5Lに希釈	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	—
小粒 核果類 ※2	テツパン液剤 (シクラニリプロール)	28	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
小粒 核果類 (うめ、 すももを 除く)	モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
小粒 核果類 (うめを 除く)	アクタラ顆粒水溶剤 (チアマトキサム)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内
	オリオン水和剤40 (アラニカルブ)	1A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期但し、 収穫7日前まで	3回以内

※1 果樹類 (かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く)

※2 小粒核果類 (あんず、うめ、すもも(プラム、プルーンも含む)およびそれらの交配種)

6. 防除方法

作物名	農薬名 (成分名)	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	本剤の 使用 回数
すもも	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリン)	3A	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
	モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内
	アグロスリン水和剤 (シベルメトリン)	3A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
うめ	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリン)	3A	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
	モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	ベニカ水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	アクセルフロアブル (メタフルミゾン)	22B	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	アクタラ顆粒水溶剤 (チアトキサム)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内
	オリオン水和剤40 (アラニカルブ)	1A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、収穫7 日前まで	3回以内
	スミチオン乳剤 (MEP)	1B	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生初 期 但し、収 穫14日前 まで	2回以内
バイオセーフ (スタイナーネマ カーボカブサイエ)	—(生)	クビアカツヤカミキリ	2500万頭 (約10g) 2.5Lに希釈	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	—	
おうとう	アクタラ顆粒水溶剤 (チアトキサム)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
	モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	1回以内
	テツパン液剤 (シクラニリブロール)	28	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリン)	3A	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
ネクタリン	アクタラ顆粒水溶剤 (チアトキサム)	4A	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
	ハチハチフロアブル (トルフェンピラド)	21A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、収穫 前日まで	2回以内
	オリオン水和剤40 (アラニカルブ)	1A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、収穫 21日前まで	2回以内
	アグロスリン水和剤 (シベルメトリン)	3A	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
食用さくら (葉)	バイオリサ・カミキリ (ポーベリア ブロンニアティ)	—(生)	クビアカツヤカミキリ	1本/樹	主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける	成虫発生初 期	—
	バイオセーフ (スタイナーネマ カーボカブサイエ)	—(生)	クビアカツヤカミキリ	2500万頭 (約10g) 2.5Lに希釈	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	—

6. 防除方法

作物名	農薬名 (成分名)	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	本剤の 使用 回数	
樹木類	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリン)	3A	クビアカツヤカ ミキリ(さくら)	—	噴射	成虫発生初 期	6回以内	
		3A	カミキリムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを 差し込み噴射	—		
		3A	カミキリムシ類 成虫	—	噴射	—		
	スミバイン乳剤 (MEP)	1B	カミキリムシ類(ス ギカミキリを除く)	50~150倍	樹幹散布	成虫の発生初 期又は直前	6回以内	
	ケムシジェット (クロラントラニプロロール・ピフェントリン)	28 3A	クビアカツヤカ ミキリ(さくら)	—	噴霧液が均一に付着するように 50cm以上離れた所から数回断 続して噴射する。	—	6回以内	
さくら	園芸用キンチョールE (ベルメトリン)	3A	クビアカツヤカ ミキリ	—	【専用ノズルつけかえ方式】容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、 食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。 【2ウェイノズル方式】折り畳まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを 差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	—	—	
	アクセルフロアブル (メタフルミゾン)	22B	クビアカツヤカ ミキリ	100倍木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入 1000倍散布 200倍主幹から株元に散布	—	成虫発生直前 ~成虫発生期	6回以内	
	マツグリーン液剤2 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカ ミキリ	20倍樹幹散布 200倍散布 50倍食入孔に注入	—	成虫発生初 期 発生初期	5回以内	
	ウッドスター (ジノテフラン)	4A	クビアカツヤカ ミキリ	注入部直径 6cm~10cm : 8~12mL、10cm~20cm : 12~ 24mL、20cm~30cm : 24~36mL、30cm~40cm : 36~48mL、 40cm~50cm : 48~60mL、50cm~60cm : 60~72mL、以降、 直径が10cm増す毎に12mLを追加する。	樹幹 注入	新葉展開後 ~落葉前ま で	3回以内	
	リバイブ (エマメクテン安息香酸塩)	6	クビアカツヤカ ミキリ	胸高直径(樹幹部)6~10cm : 30mL、11~15cm : 60mL、16~20cm : 90mL、21~25cm : 120mL、26~ 30cm : 150mL、30cm以上は胸高直径が5cm増す ごとに30mLを増量する。	樹幹部に注入孔 をあけ、注入器の 先端を押し込み樹 幹注入する。	発生前~発 生期	1回以内	
	アトラック液剤 (チャメトキサム)	4A	クビアカツヤカ ミキリ	胸高直径(樹幹部)6~10cm : 30mL、11~15cm 60mL、16~20cm : 90mL、21~25cm : 120mL、26 ~30cm : 180mL、30cm以上は胸高直径が5cm増 すごとに30~60mLを増量する	樹幹注入	幼虫発生前 ~幼虫発生 期	3回以内	
	モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	4A	クビアカツヤカ ミキリ	2000倍	散布	発生初期	5回以内	
	ダントク水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカ ミキリ	2000倍	散布	成虫発生初 期	5回以内	
	ベニカ水溶剤 (クロチアニジン)	4A	クビアカツヤカ ミキリ	2000倍	散布	成虫発生初 期	5回以内	
	トルネードエースDF (インドキサカルブ)	22A	クビアカツヤカ ミキリ	1000倍	散布	成虫発生初 期	4回以内	
	ファイントリムDF (インドキサカルブ)	22A	クビアカツヤカ ミキリ	1000倍	散布	成虫発生初 期	4回以内	
	ダブルトリガー液剤 (シクラニプロロール)	28	クビアカツヤカ ミキリ	2000倍	散布	発生初期	2回以内	
	オリオン水和剤40 (アラニカルブ)	1A	クビアカツヤカ ミキリ	1000倍	散布	成虫発生期	5回以内	
	バイオセーフ (スタイナーネマ カーポカプサエ)	—(生)	クビアカツヤカ ミキリ	2500万頭(約10g) 2.5Lに希釈	木屑排出孔を中心に薬液が滴 るまで樹幹注入	幼虫発生期	—	
	バイオリサ・カミキリ (ボーベリア ブロンニアティ)	—(生)	クビアカツヤカ ミキリ	1本/樹	主幹又は主幹の分枝部分に巻 き付ける	成虫発生初 期	—	
	スミチオン乳剤 (MEP)	1B	クビアカツヤカ ミキリ	1000倍	散布	成虫発生初 期	6回以内	
	カルホス乳剤 (イソキサチオン)	1B	クビアカツヤカ ミキリ	1000倍	散布	成虫発生初 期	6回以内	
	ベニカXネクストスプレー (還元澱粉糖化物・クロチ アニジン・ピリダリル・ベルメトリン・マンデストロビン)	4A 3A	クビアカツヤカ ミキリ	原液	散布	成虫発生初 期	6回以内	
	もも、うめ、すもも、さくら (伐倒木)、(枯損木)	キルパー40 (カーバムナトリウム塩)	8F	クビアカツヤカ ミキリ	被覆内容積1立方m当り 原液750~1500mL	加害された伐倒木を集積したものまたは 枯損木に、所定量を散布し、直ち にビニールシート等で密閉し所定期間 くん蒸する。14日間以上。	—	1回以内
	うめ、もも、すもも、さくら (伐倒木)	NCS ヤシマNCS (カーバム)	8F	クビアカツヤカ ミキリ幼虫	被覆内容積1立方m当り 原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散 布し、直ちにビニール等で密閉し、くん 蒸する。14日以上。	—	1回以内
樹木類(倒木、伐倒木)	スミバイン乳剤 (MEP)	1B	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く)	50~150倍	散布	伐倒・風倒直後樹皮下 及び材内生息期	6回以内	
樹木類(伐倒木)	パインサイドS油剤D パークサイドF (MEP油)	1B	カミキリムシ類	原液	本剤をそのまま伐倒木樹皮の表面に 表面積1㎡当り400~600mLの割合で 散布する。	伐採地、貯 木場	—	
	パークサイドオイル (MEP油)			40~60倍(灯油で希釈)	本剤の所定希釈液(灯油で希釈)を伐 倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400 ~600mLの割合で散布する。			

6. 防除方法

3. 被害樹の伐採

クビアカツヤカミキリの被害にあった樹は、被害がひどい場合は枯死する可能性がある。果樹の場合は、果実へ養分が供給されず、収穫期が近づいても実が太らないことがある。枯死木や生産性がなくなった樹木は、クビアカツヤカミキリ発生源となるだけでなく倒木や落枝の危険もあるため伐採する。

伐採の注意点

伐採処分 伐採は成虫の分散を防ぐため、緊急の場合を除き、**9月～翌年4月末の間**に行う。

成熟幼虫は翌年の羽化に備えて秋には蛹室にこもり、以後は何も食わずに成虫になることが可能。従って、切断した幹や枝からも羽化する可能性があるため、伐採後はすみやかに破砕や焼却を行う。

破砕・粉砕

現地でチップパーにより破砕、又は近隣のチップ工場にて破砕(チップの厚さは10mm以下を目安)。

焼却処分

市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

現地での野焼きは原則禁止(廃棄物の処理と清掃に関する法律)。

ネット・ビニルシート被覆

直ちに破砕や焼却処分が実施できない場合は、ネットやビニルシートなどで伐採樹を覆い羽化・分散を防ぐ。

野焼きについて

廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

処分に伴う運搬について

特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。(詳しくは次ページを参照。)

伐採後の切株

クビアカツヤカミキリの幼虫は、根部にも食入する。切り株が残っているとそこから成虫が発生する危険があるため、伐採後の羽化・分散を防ぐため伐根処理が必要となる。伐根が困難な場合は、ビニルシートや肥料袋などで多い、さらにネットで被覆することで内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。



7. 伐採樹の運搬・保管について

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の規制に係る運用(概要)

- 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法)において、特定外来生物の飼養等(飼養、栽培、保管、運搬)は原則禁止されている。
- クビアカツヤカミキリは、駆除のため伐採処分が必要な場合があるが、伐倒した被害木に入り込んだ個体については、その場での殺処分が困難であり、許可無く運搬できないことは、迅速な防除の妨げとなる。
- そのことから、クビアカツヤカミキリの運搬および保管に係る運用を環境省において整理しており、下記にその内容を要約する。

1. 次の要件を全て満たす場合、外来生物法の「運搬」には該当しない。

- 伐採防除は成虫脱出期以外(概ね9月～翌年4月)に確実な逸出防止措置をとった上で実施する。
- やむを得ず、成虫脱出期及びその前後(5月～8月)に緊急的に実施する場合は、厳重に梱包または閉鎖空間型の車両(バン等)に積載するなどし、運搬中の確実な逸出防止措置をとるとともに、速やかに殺処分する。
- 焼却処理や廃棄物の処分等については、市町村の指示に従うこと。

ア) その場で全ての個体を殺処分することが困難である場合、拡散を防ぎ、確実に殺処分することを目的として、焼却または粉碎、くん蒸が可能な場所へ運搬。

焼却・粉碎等で確実に防除

焼却場

イ) 目視で確認できる個体については、運搬する前に確実に殺処分を行うこと。



見つけ次第、捕殺

ウ) 運搬中に当該虫や樹木が落下・飛散しないよう、逸出防止措置を実施する。

幌やブルーシート等で覆い、落下・飛散を防止



エ) 特定外来生物の防除であることを周知するため、実施する主体・実施日程・場所を事前に公表する。

特定外来生物
クビアカツヤカミキリの防除
実施者: ○○ ○○
日時: ○月○日○時～○時
場所: ○○地区
○○焼却場へ運搬

掲示板等で公表

※ エ)における「実施する主体」は防除の実施者、公表の方法としては、「掲示板による周知」のほか「HPでの公表」、「広報物・チラシの配布」、「回覧板での周知」などが考えられる。

2. 上記1に付随してやむを得ず一時的に当該生物・樹木を保管する場合

- 逸出防止措置が十分にとられており、第三者が容易に持ち出せないよう管理され、かつ必要最小限の期間に限れば、外来生物法の「保管」には該当しない。
- 本運用は、継続的かつ計画的な防除の際に、主務大臣の防除の確認・認定を受けることを妨げない。詳細は近畿地方環境事務所野生生物課(06-6881-6505)までお問い合わせください。

8. もも害虫防除暦（例）

果樹はクビアカツヤカミキリ以外にも様々な害虫に加害されるため、他の害虫の発生状況を見ながら総合的に防除することが効率的である。

時期		生育ステージ	クビアカツヤカミキリ生活環	農薬防除											
月	旬			対象害虫	薬剤(IRACコード)										
				散布剤	食入孔注入剤	生物農薬									
12	上	活動休止期		カイガラムシ類	マシン油										
	中														
1	下														
	上														
2	中														
	下														
3	上			コスカシバ	フェニックスフロアブル(28)(発芽前)										
	中														
4	下			開花				シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類	スカウトフロアブル(3A)						
	上														
5	中							カイガラムシ類幼虫	アブロード水和剤(16)			シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類	ロディー乳剤(3A)		
	下														
6	上	クビアカツヤカミキリ、カイガラムシ	スミチオン乳剤(1B)			クビアカツヤカミキリ、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	ロビンフード、ベニカカミキリムシエアゾール(3A)	バイオリサカミキリ(-生)						
	中														
7	下	シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	アディオン乳剤(3A)			ハダニ類	スターマイトフロアブル(25A)					バイオセーフ(-生)			
	上														
8	中	クビアカツヤカミキリ、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類、カメムシ類	テツパン液剤(28)			クビアカツヤカミキリ、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)								
	下														
9	上	クビアカツヤカミキリ、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)			コスカシバ	トラサイドA乳剤(1B)								
	中														
10	下														
	上														

※赤字はクビアカツヤカミキリに登録のある農薬

この防除暦は一例であり、地域やほ場によって害虫の種類や発生消長に違いがあるため、ほ場をよく観察して適切に防除すること。農薬使用時にはラベルをよく読み、登録内容や使用上の注意事項を確認してから使用すること。特に収穫直前の防除は収穫前日数に注意し、計画的に防除すること。

クビアカツヤカミキリやそのフラスを発見した場合は、できるだけその場で捕殺し、発見した場所の市町村の指示に従ってください。また、防除法については下記までお問い合わせください。

名称及び所在地

(もも、うめ、すもも等果樹類のクビアカツヤカミキリに関すること)

大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ
〒583-0862 羽曳野市尺度442 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所内
直通 072-957-0520 FAX 072-956-8711

大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 地産地消推進グループ
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎22階
代表 06-6941-0351(内線6744) FAX 06-6614-0913

大阪府 北部農と緑の総合事務所 農の普及課
〒567-0034 茨木市中穂積1-3-43 三島府民Cビル内
代表 072-627-1121 FAX 072-623-4321

大阪府 中部農と緑の総合事務所 農の普及課
〒581-0005 八尾市荘内町2-1-36 中河内府民Cビル内
代表 072-994-1515 FAX 072-991-8281(農の普及課)

大阪府 南河内農と緑の総合事務所 農の普及課
〒584-0031 富田林市寿町2-6-1 南河内府民Cビル内
代表 0721-25-1131 FAX 0721-25-0425

大阪府 泉州農と緑の総合事務所 農の普及課
〒596-0076 岸和田市野田町3-13-2 泉南府民Cビル内
代表 072-439-3601 FAX 072-438-2069

(緑化樹(さくら)等のクビアカツヤカミキリに関すること、特定外来生物全般に関すること)

大阪府 環境農林水産部 みどり推進室 みどり企画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎22階
代表 06-6941-0351(内線2745) FAX 06-6210-9551

本資料に関する疑問点、不明な点等のお問合せは下記までお願いします。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>



大阪府 令和5年度 農業技術資料

環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

〒583-0862 羽曳野市尺度442

TEL 072-957-0520 FAX 072-956-8711

Email byogaichu@sbox.pref.osaka.lg.jp



編集協力：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

令和6年3月発行、8月改訂